

保全業務見学会

当社は、再処理工場を長期にわたって、安全かつ安定的に運転していくため、地元企業の方々に設備の保全業務を担っていただくための活動を進めています。

再処理工場の一般産業と同様の機器については、既に多くの地元企業の方々に保全業務を担っていただいておりますが、将来的に主要な機器も含めて、保全業務を地元企業の方々に担っていただけるよう、さらなる参入促進に向けて様々な取り組みを行っています。

この一環として、地元企業の方々に直接現場にご案内し、保全業務の作業イメージを持っていただくことを目的に、2022年度から「保全業務見学会」を開催しています。

【9月6日 保全業務見学会の内容】

再処理工場内に数多くある火災報知器の点検業務を、地元企業4社、13名の方々にご覧いただきました。火災報知器の点検業務は、まず現場で危険予知活動(KY)を行い(写真②)、その後、受信機が正常に動作することを確認します(写真③)。また、建物内で火災報知器の点検業務を行います(写真④)。



① 概要説明の様子



② 現場KYの様子



③ 受信機の動作確認をしている様子



④ 火災報知器の点検業務の様子

見学会に参加された地元企業の方々にいただいたご意見

- ・「実際に見学をしてみて、再処理工場での点検作業のイメージができた」
- ・「機会があればその他の点検業務も見学し、参入検討の一助としたい」

今後も地元企業の方々に参入をご検討いただけるよう、当社が日々現場で行っている保全業務の見学会を定期的で開催します。参入にあたって技術習得が必要な場合は、訓練施設を活用した教育・訓練の実施や、当社グループ会社での人材育成などの支援を行います。

また、原子力施設の保全業務は、どうしても年に一度の定期検査の期間に集中してしまいます。そこで、定期検査期間の作業ピークをなくし、年間を通じて業務量の平準化を進め、企業の方々が年間を通じて働ける形としたり、設備投資や人材雇用などの判断がしやすいよう、中長期的な保全計画を共有します。

引き続き、当社と協力企業が一体となって、地域の皆さまにご安心いただける安全な再処理工場をつくりあげてまいります。